

藤沢総合高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

審議会等名称	令和6年度 藤沢総合高等学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和6年6月26日(木) 15時30分～17時00分
開催場所	藤沢総合高等学校 会議室
出席者	学校運営協議会委員 6名 事務局(副校長・教頭・総括教諭・担当者) 9名
下欄に掲載するもの	・議事概要
審議(会議)経過	<p>1 校長挨拶</p> <p>2 委員、出席職員自己紹介</p> <p>3 学校運営協議会組織について(副校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢総合高等学校学校運営協議会イメージ図 <p>4 今年度学校運営の基本方針について(校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育計画と学校評価報告書で4年間(令和6～9年)、1年目の目標を示す ・グランドデザイン これまでの4年間の総括を受けて新たに加わった要素を加えて進化させた ・新学習指導要領を踏まえた学校経営、総合学科の仕組みを活かしていきたい <p>人権教育、シチズンシップ教育、在県外国人、働き方改革、不祥事ゼロプログラムの策定など</p> <p>授業を見ていただくのは次回以降としたい</p> <p>5 今年度学校諸活動について(各グループ総括教諭)</p> <p>ガイダンスGより</p> <p>令和6年3月卒業生進路状況</p> <p>例年同様だが、就職、公務員が少し増えた</p> <p>在県生徒(3年次生)の進路は個々の状況に応じて支援したい</p> <p>シチズンシップ教育で課題解決の取組み、社会につながる取組みをすすめたい</p> <p>高校卒業後も「学び続ける意欲」を持たせたい</p> <p>生徒活動Gより</p> <p>行事や部活動に生徒の視点や意見を反映していく</p> <p>外部支援をどのように取り入れていくか</p> <p>部活動の様子を発信していく</p> <p>体育祭実施 熱中症ゼロ さまざまなルール作りを継続している</p> <p>文化祭9/21, 22 招待制をとる</p> <p>部活動 希望制にして2年目加入率56.5% わずかに減少した</p> <p>生徒支援Gより</p>

保健室来室状況 例年と変わらないが2年次生が多い
外国につながるのがある生徒の支援 在県WGでサポート
かながわ子どもサポートドック2年目 5月に実施した、今後は夏
休み明け、冬休み明けに実施したい

総務Gより

地域との協働 意識を持つところから始めたい
防災意識を持たせる
美化意識 全校清掃月1回

カリキュラムGより

授業時間の検討 (50分授業)
35週確保する工夫など細かいことは今後検討していく
必履修科目は通年で履修などを判断することに変更した
ICT機器の利活用 一人一台PCの活用 Wi-Fiの整備
遅刻者数の集計 表記を変えた 1年次は毎日クラスに一人程度

総合推進Gより

課題研究 2年次後期から始めている
シチズンシップ教育の研究指定校 学校全体での取組み、授業観察
シートにシチズンシップ教育の視点を記入するようにした
ボランティア講習会 参加は増えている
ホームページ更新 情報発信していく
学校説明会の予定、全公立展 2000名参加していただいた
夏季連携講座 6講座増えて参加予定 80名

- ・ 在県入学生徒に対する新しい支援策 (副校長)
WGの報告 現状、課題、支援策など今後の学習支援体制を策定
- ・ 50分授業については内部決定 (校長)
- ・ 委員の皆様からは校種の課題などについてお話しいただきたい

6 意見交換

質問：事業所見学の後の報告会では、この仕事をやるためにはこんな
ことが必要というような今の学習とのつながりを自分事として話す
ような工夫をしたらどうか。「やりたいことがある」という生徒が増
えているが例えばイラストを描く場合自分の好きな絵を描くだけ
ではなく、他の人に役に立つ絵を描くことも大切、「好きが仕事につな
がる」ということをわかってほしい。

回答：インタビュー実習では1クラスが8事業所に行く、あらかじめ
仕事について調べた上で実習に行かせている。「好きを仕事にする」
にはコミュニケーション能力が必要、いろいろな人とつながる必要
があることを学ばせている。

意見：体育祭や入学式後の場面で先生方同士の情報共有ができていな
いのではないかと思った。

意見：青少協ではデイキャンプなどでボランティア部に子どもの遊び
相手をしてもらった。長後共育フォーラムではダンス部・かるた部
に協力してほしい。ふれあいコンサートは今年度藤総の体育館で開

	<p>催予定、総合司会や受付は生徒会の生徒さんをお願いしたい。</p> <p>質問：中学校では漠然とした不安を持った多様化した子どもの価値観に関する不登校が増えてきている。不登校の生徒に対しては地域の方や教員経験者など外部人材で対応しているが苦慮している。また「総合的な学習の時間」は若手の教員が増えてきて企画をする教員がいなくなってしまったため前例踏襲となり子どもたちの課題とかけ離れつつあってこの教科の趣旨とずれてきている。高校の総合学習ではどのようにしているか、「主体的に学びに向かう態度」という観点の評価の仕方を伺いたい。</p> <p>回答1：授業の組立てはグループ業務として位置づけ年次ごとに年次会で確認しながら進めている。</p> <p>回答2：観点別の評価は科目ごとに統一している、内容・目標・割合・単元ごとに示している。</p> <p>意見：単元の評価計画を出すことは中学校ではなかなかできない</p> <p>質問：小学校では「友達と協力して課題を解決していく子」を目指しているが、教員の不足や外国につながりのある生徒が多くなってきており言葉の壁やその子の特性が問題である。「知識を覚えて出す」時代ではないので、高校では小学校に何を求めているか、小学校6年間で何を育てていくかを考えている。</p> <p>以上</p>
次回開催予定日	令和6年10月予定
問合せ先	副校長 大塚 電話 0466-45-5325（直通）